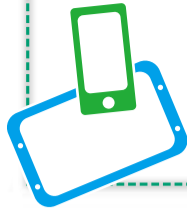


特別の 予算委員会 討論(要旨)



令和6年予算特別委員会の映像は区議会ホームページでご覧いただけます。
右の2次元バーコードからスマートフォン・タブレットでも視聴できます。



※令和6年10月に開会予定の決算特別委員会についても、YouTubeでインターネット生中継を行いますので、ぜひご覧ください。

※予算特別委員会の審査結果は8面に掲載しています。

足立区議会 公明党

討論者



石毛かずあき
委員

区は、令和6年度予算を「命と暮らしを守りぬく。安心と活力のあだち」と名付け、新型コロナウイルス感染症の影響から日常を取り戻しつつある中で、依然と続く物価高騰等への対策、「福祉まるごと相談課」創設による包括的相談支援、「はるかぜ」の路線維持に向けた協働事業や新たな交通手段としてのデマンドタクシー実証実験等、区民生活を脅かす不安を取り除き、全ての区民が安心を実感し、区全体が活力あるまちななることを目指した予算編成を行った。

特に能登半島地震は、改めて災害への危機感を高めることとなり、災害備蓄の当初予定からの積み増しや、建築物耐震化促進事業の助成対象拡充等、「命を守りぬく」ための予算措置が行われた。

以前より我が党が要望していた、出産費助成事業、こども・高齢者支援、防災・防犯対策、自然災害や物価高騰の区民生活を脅かす不安を取り除く対策等、区全体が活力あるまちななることを目指しており、大いに評価する。

共産党提出の修正案は、中長期的な区政運営を考慮しておらず、到底賛成できない。最後に、今回の予算特別委員会では我が党の委員から指摘し要望した、防災・減災を含めた災害対策、女性の健康支援を含めた「すこやかプラザあだち」の機能強化と活用、高齢者サービスの向上と支援、介護予防対策の取り組み、介護職員への研修方法・資格取得の助成支援、伝統工芸・ものづくり産業への支援、町会・自治会への支援、学童保育室の入室を含めた医療的ケア児への支援、交通不便地域解消対策、ICTを活用した児童・生徒の学力向上の取り組み、教職員の負担軽減・ストレス対策の強化、HPVワクチン接種の更なる周知等、様々な提案にも真摯に対応するよう要望する。

足立区議会 自由民主党

討論者



かねだ 正
委員

本年1月1日に発生した能登半島地震は、改めて災害への危機感を高めることとなった。区の防災・減災対策の強化・充実に注力していく必要がある、いざという時に区民生活を守り支えられるよう、大規模災害に備えた堅実な財政運営が求められる。

令和6年度予算は「命と暮らしを守りぬく。安心と活力のあだち」と名付け、自然災害や物価高騰等の区民生活を脅かす不安を取り除き、全ての区民が安心を実感し、区全体が活力あるまちななることを目指した予算となった。

災害備蓄の積み増しや、建築物耐震化促進事業の助成対象拡充等、「命を守りぬく」ための予算措置を直ちに行い、「福祉まるごと相談課」創設による包括的相談支援の開始、「はるかぜ」の路線維持に向けた協働事業及び新たな交通手段としてのデマンドタクシー実証実験等、区民に寄り添い暮らしを支えることを意識した予算となっており、一定の評価をするものである。

なお、我が党委員が指摘した、パブリックスペースの充実、六町駅前区有地活用事業の早期着工、足立区観光ガイドマップの作成、企業誘致の促進、子どもたちの英語学習・国際交流機会の充実、自治体間国際交流推進のための所管設置、「福祉まるごと相談課」の体制サポート、デマンドタクシー実証実験における周知徹底、インフラ整備、受援計画の推進、災害備蓄輸送拠点の検討、自衛隊員募集支援、刑法犯認知件数減少施策、糖尿病対策、町会・自治会活動支援等、様々な提案及び要望事項については、本予算の執行と今後の区政運営に確実に反映するよう強く要望する。

共産党から提出された修正案については、長期的で安定した区政運営を捉えたものではなく、到底賛成できるものではない。

足立区議会 日本共産党

討論者



小林 ともよ
委員

一般会計予算案について、高齢者の紙おむつや補聴器購入補助の所得要件撤廃、生計困難者の介護保険利用料軽減等、わが党も繰り返し求めてきた施策の予算化は歓迎するが、積立額が全国でトップクラスの基金は貯めこみすぎであり、区民の暮らしに見合った積極的な活用こそ必要である。

昨年実施した運輸や福祉事業所、浴場等に対する支援策を直ちに実施すべきである。家庭内備蓄を支援せず、備蓄をお願いするだけという区の姿勢は、「区民の命を守りぬく姿勢」とは言えない。精神障害者についてはタクシー券を出さず、運賃軽減サービスを求めることさえ拒否する矛盾かつ冷たい姿勢である。公共交通バスや「はるかぜ」等の減便・廃線が相次ぐ地域に関して全くの無策で、高齢者の足を守る立場に立っていない。これでは「命と暮らしを脅かす」の予算と言わざるを得ない。

わが党が提案した修正案には、給付型奨学金の拡充や返済支援、生きがい奨励金の復活等があり、基金総額の1.5%、予算総額では0.08%の増額予算で、45万人の区民、事業者を応援することができるものである。

介護保険特別会計は、値下げに踏みきったことで賛成するが、所得の多くない課税者の保険料大幅値上げには歯止めをかけることを求める。

国民健康保険特別会計は、国は公費負担の増額を拒否し続けており、平均保険料は令和5年度と比較して1万3千157円の値上げ、均等割にいたっては5千500円の大幅値上げとなっており、到底賛成できない。

後期高齢者医療特別会計は、値上げをしない努力をしたことは認めるが、全体としては値上げとなったことは認められない。何よりも区民の命と暮らしを守る施策を最優先とすることを改めて強く求める。

足立区議会 日本維新の会

討論者



富田けんたろう
委員

区は、令和6年度予算を「命と暮らしを守りぬく。安心と活力のあだち」と名付け、自然災害や物価高騰等の区民生活を脅かす不安を取り除き、全ての区民が安心を実感し、区全体が活力あるまちななることを目指して予算編成が行われた。

能登半島地震を受け、災害備蓄の当初増量予定からの積み増し、建築物耐震化促進事業の助成対象拡充等、区民の「命を守りぬく」ための予算措置を直ちに講じたことや、「福祉まるごと相談課」の創設や、デマンドタクシー実証実験等は、区民の「暮らしを守りぬく」ことを意識した区の新たな挑戦として大いに評価する。

また、本予算特別委員会では、公金の投入にあたっては最大限の結果を追求すべきとの強い思いに加え、組織の硬直化や閉塞感を打破し、優秀な区職員が萎縮せず能力を発揮できる、未来志向な区役所になることを望み、次のことを要望・提案した。

自主財源の確保、内部通報制度の適切な運用、事故・ミス事案の撲滅、選挙管理委員資格要件に関する議論から区のリーガルチェック体制整備、管理職の魅力向上、職員提案制度の導入、区民の災害備蓄や自意識の促進施策、災害用倉庫の実効性向上、高齢者入浴事業の再編、省エネ対策工場設備更新補助、インバウンド施策の構築・拡充、民泊の規制緩和、小規模事業者経営改善補助金や人材採用支援助成金の効果的運用、デマンドタクシー実証実験の成功に向けた施策、議会と若手職員の交流等である。

なお、介護保険特別会計は、23区で最も高い保険料からの脱却が示された一方、課税世帯の累進性が強化される形になった。税金は公平、公正に使われるべきであり、区政を実際に支えている層にも確実に届く施策を今後も展開するよう強く要望する。

足立区議会 立憲民主党

討論者



銀川 ゆい子
委員

「命と暮らしを守りぬく。安心と活力のあだち」と名付けた令和6年度当初予算は、年頭に発生した能登半島地震を受けた自然災害に対する備えの見直しや防災・減災対策強化をはじめ、包括的相談支援「福祉まるごと相談課」の創設、持続可能な区民の移動手段を確保するバス事業者支援等、区民の命と暮らしを守りぬく区民の強い決意と覚悟を感じる予算編成となっており、令和6年度の予算額は10年連続で過去最大を更新することとなった。災害備蓄食料の増備蓄、コミュニティバス「はるかぜ」の運行経費負担、デマンドタクシーの実証実験、「すこやかプラザあだち」のオープン、介護保険サービス利用料の軽減、切れ目のない子ども・教育・若者支援、そして障がい児・者を支える助成額・手当の拡充等、区民の命と暮らしを守る事業に注力していることを評価する。

一方で、バス事業者支援については、路線の減便・廃止が続く前に対策を打つことを願っていたとともに、デマンドタクシーの実証実験がパンパン号のように交通不便地域の期待を裏切らないことを願う。

予算特別委員会では指摘した、夏休みの子ども体験活動無料化事業の拡大、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等学校現場支援の拡充、バス運転士への住居借り上げ支援、スマートバス停の導入、自転車事故減少対策をはじめとした事故防止のまちづくり、保護者や子どもへの産婦人科医による性に関する情報提供機会の設置、重度障がい者グループホームへの区独自補助制度の拡大とAED設置補助・配備、子ども室内遊び場の整備、細街路整備事業の強化、キャッシュレス還元事業の還元率30%、区道占用料未収対策等、今後の区政運営に反映するよう強く求める。